



9月1日は防災の日

防災の日は、大正12年（1923年）のこの日に発生した「関東大震災」を教訓に、防災を見直すため、また、この時期に多く発生する台風への心構えの意味も含め、昭和35年（1960年）に制定されました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、マグニチュード9.0という巨大地震により、当市は震度6強を観測し、甚大な被害を受けました。ライフラインが寸断され、停電、断水が続き不自由な生活を送ることになり、私たちは地震の恐ろしさを思い知らされました。

いざという時、大切な命や財産を地震から守るには、日頃から危機意識を持つことが大切です。東日本大震災での教訓を生かし、通常の生活に戻った「いま」の備えを再点検し、緊急時の連絡手段、帰宅経路の確認、停電時の備え、食料品の確保など、ぜひ家族で話し合ってください。

地震に対する 10 の備え

1 家具類の転倒・落下防止

- ・家具やテレビなどを固定し、転倒や落下に備える。
- ・けがの防止や、避難に支障のないように家具を配置する。

2 けがの防止対策

- ・避難に備えてスリッパやスニーカーを準備する。
- ・停電に備えて懐中電灯を準備して、すぐに使える場所に置く。
- ・ガラスに飛散防止措置をする。

3 家屋や塀の強度を確認

- ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をする。
- ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強をする。

4 消火の備え

火災の発生に備えて、消火器の準備や風呂水のくみ置きをしておく。

5 火災発生の早期発見と防止対策

- ・火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置する。
- ・普段使用しない電気機器は、差込みプラグをコンセントから抜く。
- ・電気やガスが原因で発生する火災防止のため、感電ブレーカーや感電コンセントなどの防災機器を設置する。

6 非常用品の備え

- ・非常用品は、置く場所を決めて準備する。
- ・車載ジャッキやカーラジオなど、身の回りにあるものの活用を考えておく。

7 家族で話し合っておく

- ・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決める。
- ・離ればなれになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決める。
- ・家族で避難場所や避難経路を確認する。
- ・普段の付き合いを大切にするなど、隣近所との協力体制を話し合っておく。

8 地域の危険性を把握する

- ・地域の防災マップに加えて、我が家の防災マップを作る。
- ・自分の住む地域の地域危険度を把握する。

9 防災知識を身につける

新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し、知識を身につける。

10 防災行動力を高めておく

日頃から防災訓練に参加し、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、情報連絡、避難要領などを身につける。

